

第104期 中間報告書

平成27年4月1日 ▶ 平成27年9月30日

YAGI
New Power, New Speed

GLOBAL INNOVATOR

■ 株主の皆様へ

PRESIDENT MESSAGE



代表取締役社長 八木秀夫

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社は平成27年9月30日をもって第104期（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）の前半を終了しましたので、ここに経営実績とともに事業概況をご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府が推し進める積極的な経済政策により、雇用環境の改善や輸出関連企業を中心に収益の改善が見られ、緩やかな回復基調が続きました。しかし一方で、円安による輸入コストの上昇が続く、実質賃金は低下し個人消費の回復には至りませんでした。また、海外では米国において個人消費と雇用環境が改善し、順調に景気回復が進みましたが、利上げ開始の時期が依然くすぶるなか、中国においては経済成長率の鈍化が見られ、世界的な景気減速懸念により輸出が弱含みとなるなど先行きは不透明な状況となっております。

繊維業界におきましては、衣料品で一部回復の兆しが見られ、期間の前半では資材や原料が合成繊維の輸出を中心に好調でしたが、後半に入ると世界的な景気減速が徐々に顕在化し懸念されるようになりました。また円安が慢性化するなか、海外での人件費や原材料費の高騰により、さらに輸

入コストが上昇し、厳しい環境の下、苦戦を強いられました。

このような状況の下、当社グループでは中期経営計画「Value Innovation123」の二年目にあたり、重点施策である「中核事業の高収益化」「海外事業の拡大・新規事業の強化」「経営管理体制の高度化」を図っております。そのために差別化商材の供給力を強化し、優良取引先との取り組み深耕に注力し、また、香港を核にアセアンに縫製拠点を構築することで、繊維二次製品事業の拡大を目指すAGP（アセアン・ゲートウェイ・プロジェクト）と、タイを拠点にアセアンにテキスタイルの供給体制を確立するATC（アセアン・テキスタイル・コンバーティング）の両プロジェクトを進行させ海外事業の拡大に努めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は56,357百万円（前年同期比2.0%増）、営業利益は1,437百万円（前年同期比8.5%減）、経常利益は1,558百万円（前年同期比10.0%減）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,172百万円（前年同期比5.9%増）となりました。

通期につきましても、引き続き経営環境は厳しいものと思われます。当社グループといたしましては、中期経営計画「Value Innovation123」を推し進め、企業価値の向上と経営体制の強化に努めてまいります。

当社グループの通期の業績予想につきましては、平成27年5月に公表しました通り、売上高127,000百万円、営業利益3,500百万円、経常利益3,700百万円、親会社株主に帰属する当期純利益2,460百万円を計画しております。

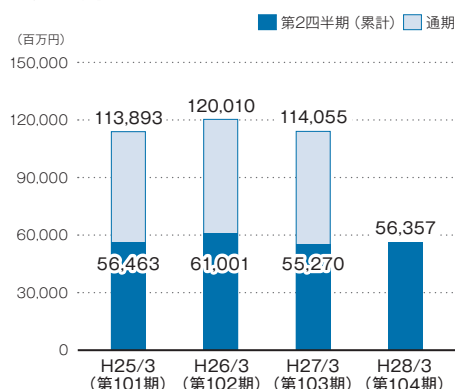
株主の皆様におかれましては、なにとぞ一層のご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成27年11月

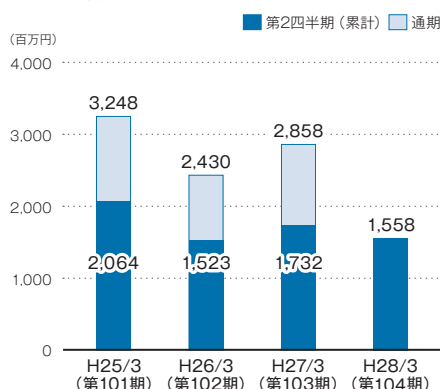
■ 第2四半期財務ハイライト（連結）

CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS

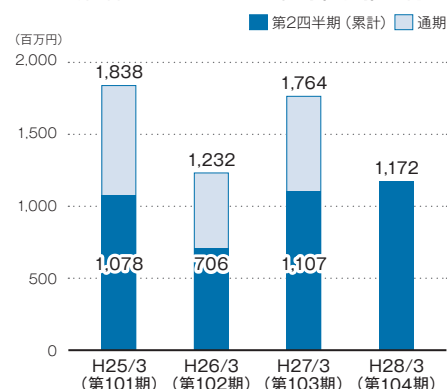
● 売上高



● 経常利益



● 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



※「企業結合に関する会計基準」等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としており、前連結会計年度までの四半期(当期)純利益についても科目名を統一しております。

18.8%

原料分野

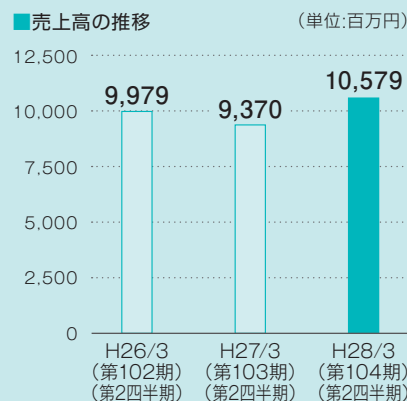


原料分野では、天然繊維原料は、好調であった天然素材の一部編地でブームが落ち着いたことや、その他の生地も閑散期に入ったことで産地の生地受注残が大幅に減少し、それら生地向けに対する原料販売は苦戦を強いられました。合成繊維原料は、中国での経済成長率の鈍化が顕著となり、輸出に陰りが見えはじめたことで、好調であった合成繊維原料販売は、国内産地の生産調整により弱含みで推移しました。また、車両部材用途につきましては、北米に陰りが見られるものの、堅調に推移しました。

このような状況の下、当社グループは、優良取引先との取り組みを

深め、複合加工された高機能糸の販売強化を図り、生産を集約することで加工効率を高め、ロスの削減に努めてまいりましたが、最終消費地である欧州や北米での市況が悪化し、在庫調整や生産調整が長引いたため、苦戦を強いられました。

この結果、原料分野は売上高10,579百万円(前年同期比12.9%増)となりました。



12.8%

テキスタイル分野

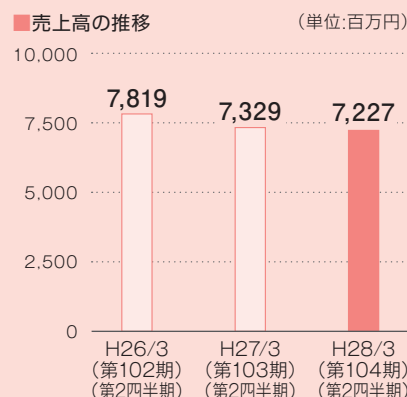


テキスタイル分野では、特殊な機械や素材を使い付加価値のある加工を施した編地に人気集中しましたが、一般的な編地に対する需要は、さらに少なくなりました。また例年では6月から9月にかけてスペースが満杯となり対応に苦慮する、起毛やスエード加工などのボリューム感を持たせる加工を施した編地は、盛り上がることなく終了しました。織物につきましては、好調だった輸出向け合繊織物に、原料や織機および加工のスペースを奪われ、生産に苦労が続いていましたが、中国での経済成長率の鈍化が顕著となり、輸出に陰りが見えはじめたことでスペースに余裕が出る状況となりました。

このような状況の下、当社グループは、販売戦略の要である「テキスタイルプロジェクト」において、素材企画力を活か

し売れ筋商品の開発をし、販売強化に努めました。

この結果、テキスタイル分野は売上高7,227百万円(前年同期比1.4%減)となりました。



64.5%

繊維二次製品分野

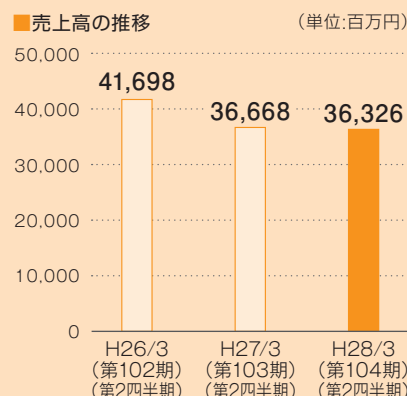


繊維二次製品分野では、経済の緩やかな回復基調にくわえ、特に夏場と秋場はめりはりのついた寒暖差のある気候の影響もあり、一部で動きが見られるようになりました。特に子供服やレディス関係を扱う先に底打ち感が感じられ、また一部の通販に復調の兆しや、ブランドを扱う商売に活況が見られました。しかしながらメンズ物は、スーツ関連でクールビズが浸透し、大幅に需要が減少しました。また、円安が慢性化するなか、海外生産国の人件費高騰などの要因で輸入原価は高止まりしており、利益率の改善に至らず、苦戦を強いられる状況となりました。

このような状況の下、当社グループは、企画段階から請け負い、製造し

供給するODM生産を推進してまいりました。また、オリジナル商材を開発するなど競争力の強化にも努めてまいりました。

この結果、繊維二次製品分野は売上高36,326百万円(前年同期比0.9%減)となりました。

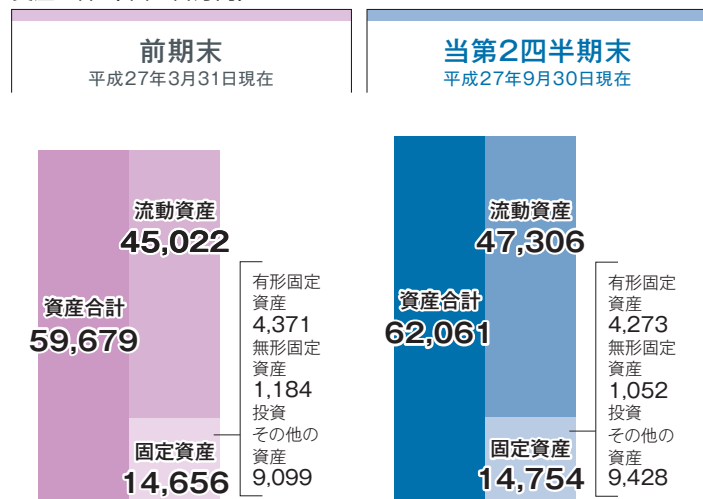


(※売上高構成比はこの他に、繊維事業その他3.6%、不動産事業0.3%があります。)

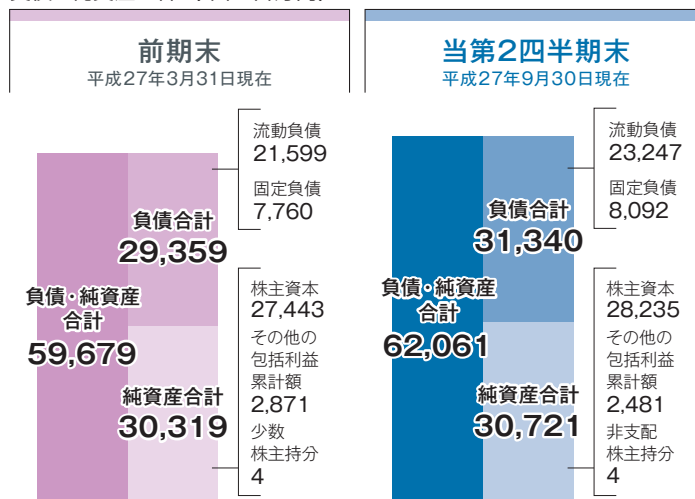
■ 連結財務データ

● 四半期連結貸借対照表

資産の部 (単位:百万円)



負債・純資産の部 (単位:百万円)





TATRAS



STRADA EST

TATRAS JAPAN(株)の旗艦店「タトラス&ストラダエスト」がオープンいたしました。

当社の連結子会社であるTATRAS JAPAN(株)は、大阪・梅田に関西初となる旗艦店をオープンいたしました。



当社グループは、中期経営計画“Value Innovation 123”の重点施策のひとつに掲げる、「海外事業の拡大・新規事業の強化」の一環として、繊維二次製品分野におけるOEMの請負事業に留まることなく、小売事業にも積極的に参入しております。

東京・青山に次いで2店舗目となる本店舗は、40歳前後のメンズ、レディースをターゲットとし、ミラノを拠点としたファッションブランド「タトラス」のダウンジャケットをはじめ、定番アイテムから最新コレクション、アクセサリ、ブランドバッグや化粧品なども扱っております。

関西地域における一大拠点として、ブランド・ショップの発信力を高め、更なる売上拡大に努めてまいります。

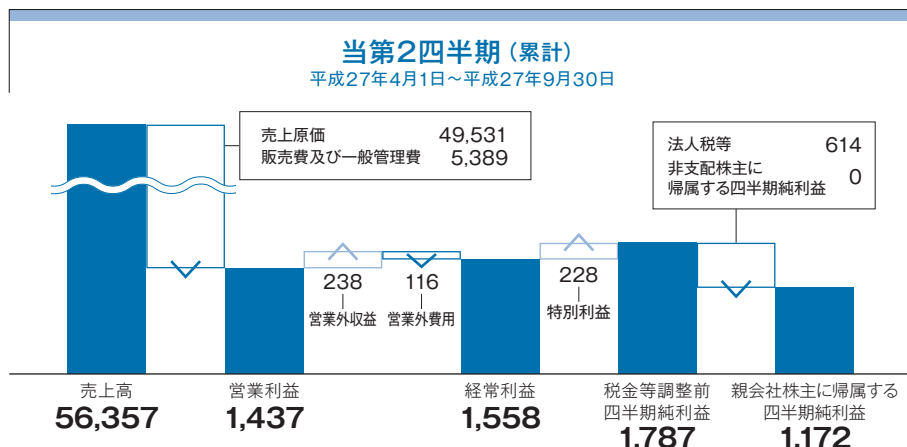
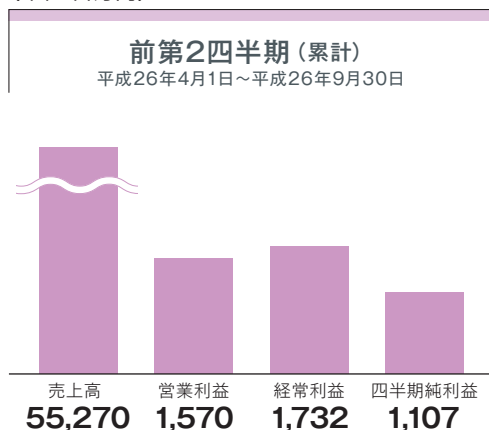
オープン前日(平成27年10月16日)のレセプションパーティーには、関係者、著名人をはじめたくさんのお客様にお越しいただきました。



CONSOLIDATED FINANCIAL DATA

● 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)



※「企業結合に関する会計基準」等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「少数株主持分」を「非支配株主持分」に、「少数株主利益」を「非支配株主に帰属する四半期純利益」に、「四半期純利益」を「親会社株主に帰属する四半期純利益」としております。

会社の概要

社 名 株式会社 ヤギ
 英 文 社 名 YAGI & CO.,LTD.
 創 業 明治26年10月16日
 設 立 大正7年4月28日
 資 本 金 1,088,000,000円
 主要な事業内容 綿化繊維、合繊維、綿化繊維物、合繊維物、
 ニット生地および衣料品等の各種繊維二次製品の
 国内販売ならびに輸出入
 主要な事業所 (国 内) 本 店 大阪市中央区久太郎町二丁目
 2番8号
 支 店 東京(東京都中央区)、
 福井(福井市)
 出張所 名古屋(名古屋市)
 営業所 和歌山(和歌山市)
 (海 外) 駐在員事務所 上海(中国)、広州(中国)、
 ホーチミン(ベトナム)、ハノイ(ベトナム)
 代理店 ミラノ(イタリア)

役員一覧 (平成27年9月30日現在)

代表取締役社長	八 木 秀 夫
代表取締役専務取締役	朝 野 幸 博
常 務 取 締 役	八 木 隆 夫
取 締 役	長 戸 隆 之
取 締 役	山 岡 一 朗
取 締 役	北 山 裕 士
取 締 役	奥 村 忠 司
監 査 役 (常 勤)	大 原 弘 幸
監 査 役	池 田 佳 史
監 査 役	塩 田 修

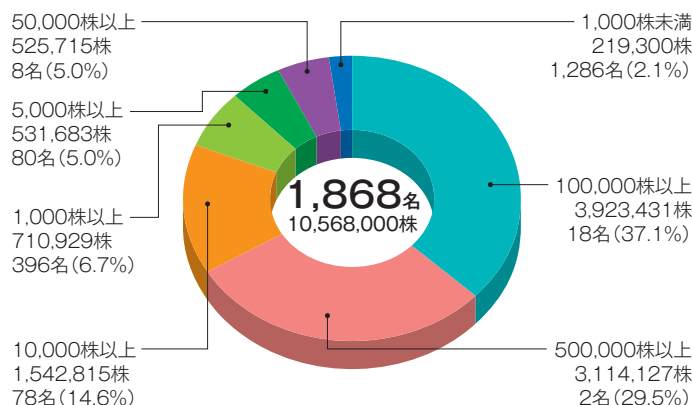
(注) 1. 取締役奥村忠司氏は、社外取締役であります。
 2. 監査役池田佳史氏および塩田修氏は、社外監査役であります。

- 発行可能株式総数 45,568,000株
- 発行済株式の総数 10,568,000株
- 株主数 1,868名
- 大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
ヤギ共栄会	944(千株)	11.25(%)
株式会社みずほ銀行	414	4.93
ロイヤルバンクオブカナダトラスト カンパニー(ケイマン)リミテッド	398	4.74
株式会社三井住友銀行	380	4.52
ビービーエチ フィデリティビューリタン フィデリティ シリーズインテリジック オポチュニティズ ファンド	347	4.14
株式会社三菱東京UFJ銀行	305	3.63
ヤギ従業員持株会	280	3.34
バンクオブニューヨーク・シー・エム クライアント アカウント ジェイビー・アルティマ・エス・イー・イー	267	3.19
第一生命保険株式会社	250	2.98
クロスプラス株式会社	219	2.61

(注) 持株比率は自己株式(2,169,327株)を控除して計算しております。

● 所有株数別分布状況



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日までの1年
 定時株主総会の基準日 3月31日
 剰余金の配当の基準日 期末配当 3月31日
 中間配当を行うときは9月30日
 単元株式数 100株
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 郵便物送付先 〒168-0063
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話照会先) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
 公告方法 電子公告とし、当社ホームページに掲載いたします。なお、電子公告によることができない
 事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
 ホームページ
<http://www.yaginet.co.jp/ir/denshikoukoku.html>

【住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について】

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

【未払配当金の支払いについて】

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。